

事項	「芽たたき」により、西洋なしの摘果作業時間は低減できる		
ねらい	西洋なしは、りんごとの果樹複合経営の品目として位置づけられ、栽培されているが、西洋なしの摘果は、りんごの摘果の後回しになりがちである。そこで、日本なしで行われている「芽たたき」を西洋なしに応用したところ、早期適正着果と摘果作業時間の低減につながる事が明らかになったので参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 作業手順</p> <p>(1) 「芽たたき」の適期</p> <p>ア 花蕾が離れておらず、展葉していない頃（5月上旬）が適期である。</p> <p>イ 適期の期間は3日程度である。</p> <div data-bbox="1107 524 1458 831" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: right;">作業適期（「芽たたき」前）</p> <p>(2) 「芽たたき」の方法</p> <p>なしは2～4番花に良品果実がなる。このため、1～4番花を残すように、指を花蕾に対して垂直に押しつぶすか、指で花蕾を軽くたたいて花梗を折る。</p> <div data-bbox="418 1003 778 1317" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">「芽たたき」の仕方</p> <div data-bbox="868 994 1219 1308" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">「芽たたき」後</p> <p>2 「芽たたき」による効果</p> <p>(1) 一つ成り摘果までに要する作業時間が、慣行に比べて10%低減できる。</p> <p>(2) 果実の初期肥大が優れる。</p> <p>(3) 良好な果形や品質が期待できる2～4番花を残すことができる。</p> <p>3 留意事項</p> <p>(1) 西洋なしの花梗は日本なしに比べて柔らかいので、「芽たたき」の際は花そうごと折らないように注意する。</p>		
期待される効果	<p>1 西洋なしの早期適正着果につながる。</p> <p>2 摘果の作業ピークを分散できる。</p> <p>3 りんごとの複合経営において、摘果作業の労力競合を軽減できる。</p>		
利用上の注意事項			
問い合わせ先 (電話番号)	農林水産政策課農業改良普及グループ(農業革新支援センター) (017-734-9473)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成24年度普及指導員調査研究結果概要書		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 芽たたきを導入した場合の一つ成り摘果までの作業時間 (平成24年 中南農業普及振興室)

区	1花そう当たり 芽たたき時間(秒)①	1果そう当たり 一つ成り摘果時間(秒)②	①+②の作業時間(秒)
試験区	1.2	1.6(52)	2.8(90)
慣行区	—	3.1(100)	3.1(100)

- (注) 1 試験場所：弘前市薬師堂  
 2 供試品種及び樹数：ゼネラル・レクラーク、各区2樹  
 3 芽たたき及び一つ成り摘果日：5月2日、5月28日  
 4 ( )内は、慣行区を100とした場合の試験区の割合

表2 開花花そう結実率及び1果そう当たり着果数 (平成24年 中南農業普及振興室)

区	開花花そう結実率(%)	1果そう当たり着果数
試験区	61.0	2.6(65)
慣行区	65.5	4.0(100)

- (注) 1 試験場所及び供試品種、樹数は表1のとおり  
 2 調査日：5月28日  
 3 1樹当たり100花(果)そうを調査  
 4 ( )内は、慣行区を100とした場合の試験区の割合

表3 果実の初期肥大 (平成24年 中南農業普及振興室)

区	6月15日	7月3日
試験区	2.4cm(104)	3.7cm(106)
慣行区	2.3cm(100)	3.5cm(100)

- (注) 1 試験場所及び供試品種、樹数は表1のとおり  
 2 果実の最大横径とそれに直交する横径の平均値  
 3 100果を目安に、結果母枝単位で着果している全ての果実を調査  
 4 ( )内は、慣行区を100とした場合の試験区の割合